奈文研ニュース

No.56 Mar.2015

NABUNKEN NEWS

NARA CULTURAL PROPERTIES RESEARCH INSTITUTE

独立行政法人　国立文化財機構
奈良文化財研究所
〒630-8577奈良市佐紀町247番1
http://www.nabunken.jp/

西トップ遺跡の保存と修復

西トップ遺跡の概要

西トップ遺跡はアンコール遺跡の中心、アンコール・トムの中にあります。奈良文化財研究所は、2002年より継続して西トップ遺跡の調査をおこなっています。9世紀末～10世紀に遡る前身遺構の存在も推定されますが、今見る南・中央・北の3祠(し)堂(どう)は14世紀以降に造営されたことが、発掘調査等でわかっています。

南祠堂の解体修復

2008年5月、中央祠堂の上部40石余りが転落し、急遽、解体修理をおこなうことになりました。2012年3月に南祠堂の解体から修復事業に着手しました。

南祠堂は上部の躯体部、それを支える上成と下成の基壇部より構成され、下成基壇は砂岩の外装の内側に、砂を版築で固めた基壇土があります。しかし、南祠堂は砂岩の外装の隙間から基壇土が流れ出したことによって、全体が傾いてしまっていました。解体・再構築によって傾きを直し、基壇土が流出しないように版築をやり直すことになりました。

躯体部は10段、上成基壇は7段、下成基壇は8段の石材で構成されることがわかり、各段ごとに石材に番号を振り、解体を進めました。一旦解体した石材は一堂に並べ、写真撮影・実測・保存状況の調査をしました。その後、仮組をおこない石材相互の組み合わせを確認していよいよ再構築です。現在下から3段目の砂岩の再構築を進めており、今年度末にはよみがえった南祠堂を見ることができるように、現地作業員とともに、鋭意作業を進めています（写真左）。

調査修復の意義と成果

今回の修復にあたっては、解体と同時に綿密な調査をおこない、遺跡の歴史を再構成することも目的としました。調査修復と呼んでいます。各石列の解体に際しては発掘調査を併行しておこない、多くの成果を得ることができました。

まず、基壇内からは青銅製鈴やベトナム陶磁をはじめとする遺物が出土し、南祠堂の14世紀代の造営をあきらかにできました。さらに、基壇南外側からは3基の埋納土器が発見されました。現代の地鎮祭のような儀式がおこなわれたのでしょうか。

思いがけない発見もありました。その一つは、基壇の下の方から石列が発見されたことです（写真右）。基壇の中に十字に平たい石を並べるとともに、さらに区画を区切った石列もありました。版築をするときの土留めかと考えました。しかし、部分的に区切ってない等、謎の多い石列です。

今回の最大の発見は、中央祠堂南階段の発見です。階段は南祠堂の下成基壇敷石によって覆われており、この発見によって、中央祠堂が先に造られ、後から南祠堂が付け足されたということがはっきりしました。

今後、こうした調査をおこないながら、南祠堂を組み上げ、北祠堂の解体へと向かう予定です。

（企画調整部　杉山 洋、佐藤 由似）

南祠堂再構築状況

基壇内石列と中央祠堂南階段